



包括ケア会議だより

こんにちは。笠間市地域包括支援センターです。

コロナウイルスの拡大防止による移動制限が解除され、日常が戻りつつあります。感染対策を忘れずに新しい日常生活の定着に努めていきましょう。

今回の個別事例会議では、岩間地区の介護支援専門員（ケアマネジャー）にも参加していただきました。

「住まいとごみ問題」のケースで個別事例検討会を実施しました。

令和2年6月23日に個別会議を実施しました。（詳細については提示を控えさせていただきます。）

ごみ捨てに困っている方の支援について支援者側のヘルパー、行政の担当者、地域のケアマネジャーから活発な意見がでました。区に入らないと地区の集積所にごみが捨てられない現状、区費が払えない生活能力、外出するには急な階段を昇降しなければならない危険な環境など、事例の共有ができ背景を正確に把握することができました。

今回のケースは、特別でなく、地域でよく聞く問題です。つまり、地域の課題です。今は問題なく過ごせていても加齢や障害により歩行が困難になったり、重

い物を持てなくなってしまうことが誰にでも起こり得ます。身内や助けになる近所の方々がいれば解決できるかもしれませんが、回数を重ねていくと遠慮が出たり、支援者の健康状態の悪化により支援が受けられなくなってしまう可能性が出てきます。

包括支援センターでは地域で支えあう力を強くするために生活支援体制整備の事業が進められています。行政のサービスを強化することも大切ですし、限られた財源の中で、地域の支えを最大限に生かし暮らしやすい環境が整えられるとよいと思います。行政の壁を越え柔軟な施策に発展できるように今後も話し合いが持てるようにしていきます。

＊＊5月の経過報告＊＊

家族に、本人の生活や健康状態を説明を繰り返したことで、病院受診の必要性を認識され受診が実現しました。

併せて介護サービス利用の促しを行い、関係者との顔合わせまで支援が行えました。

検討事例募集中！！

困難事例がございましたら、一緒に検討していきたいと思っています。地域包括支援センターまでご連絡ご相談くださるようよろしくお願いいたします。